

災害ボランティア活動報告 (No. 9)

年月日：平成23年10月29日(土)

活動場所：福島県いわき市

活動内容：A班：仮設住宅にお住まいの方の被災家屋の片付け、B班：地震被害を受けた家屋家財の運び出し

活動拠点：いわき市災害復興支援ボランティアセンター

参加者：都築一憲、黒田洋介、財津智亨、阪元浩貴、久保朋子、伊藤芳憲、山上伸哉、時岡真治、辻珠希(車)

活動報告

今回は、グリグリに入会、間もない方々を対象にした、都築副理事長主催の日帰りボランティア。車2台で朝5時に出発、都内で各隊員をピックアップして守谷SAで待ち合わせのはずが、車中、久保隊員の漫談で盛り上がり、SAを通り過ぎる波乱の幕開け。

無事ボラセンに到着。貼り紙を見ると、ボラセン開設の最終日。着々と復旧から復興へとステージが移っています。



マッチングがはじまり、陸高で惨敗した都築隊員は参戦を自粛し、ニーズをじっくり見極めます。これまで社協、ボランティアが何度も活動に挑み、失敗した最高難度のニーズが紹介されます。今日は、初心者講習なのでパスをしようとする、突然、ボランティア初体験の久保隊員、山上隊員が一步前に進みます。しかも、山上隊員リーダーに、お前ら、大丈夫か。先輩の心配を余所にやる気満々。頑張る来い。



心配を余所に、A班：久保隊員、山上隊員は、おばあちゃんの話相手しながら、任務を遂行。家財の片付けを着々と進めます。一日の活動だけでは、作業は完了しなかったかもしれないけれど、大きな前進。

作業が午後の早い時間に終わると、二日酔いが覚めてきた両隊員。帰還後、ボラセンの資材の片付けに着手。ヘルメットや資機材を綺麗に掃除をしていきます。頑張った二人には、納豆石鹸や朝鮮人参がプレゼントされました。



その頃、B班の6名は、10月末とは思えない炎天下の中、被災家屋の倉や納屋から家財道具を運び出します。広い敷地の庭先は、まさしく戦場。30名近い人数が作業にあたっていますが、次々と家財が出てきます。廃棄するものがほとんどですが、運搬のためのトラックが制約条件になります。少しでも減量化するために、都築隊員がバールで、次々と椅子やテーブルを壊していきます。何か不満があるのでしょうか。

2トン車3台、ハイエース2台分のゴミを搬出し、無事作業を終了。3時半に終わる予定が、4時を過ぎていました。一番の頑張りは、どんだけ詰めるんだと驚くほどの性能を発揮したハイエースでした。活動を終え、温泉で汗とほこりを流し、夕飯を食べ帰還の途に着きます。

しかし、久保隊員、単身、岩手のボランティアに再出発します。まるで、芦澤理事のような頑張りようです。私達は、渋滞に巻き込まれ、帰宅は23時頃、心地良い疲労でぐっすり眠ることができました。辻理事、洗車せずに車を返してごめんなさい。

